



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

和名:ミヤマダイコクコガネ 学名:*Copria pecuarius*

ダイコクコガネより標高の高い山地に生息するので、ミヤマダイコクコガネと名付けられています。ダイコクコガネよりやや小さく（体長 17~24 mm）、前胸前角（右の写真の矢印部分）が、ミヤマダイコクコガネではまるくなるのに対して、ダイコクコガネでは角張ることによって区別できます。かつては、庄原市（東城・比和・西城・高野）の山の放牧地に生息していましたが、広島県では既に絶滅してしまった昆虫（レッドデータブックひろしま 2021）です。

「フン虫」と呼ばれる、動物の排泄物を食べるコガネムシ（食糞性コガネムシともいいます。）の仲間です。かつて、牛の放牧が各地で行われていた時代には、多くの

フン虫が見られていました。しかし、放牧地がなくなったため、生息地は狭まりました。さらに、草を食べずに配合飼料を与えられた糞ではフン虫の餌として適しませんでした。おまけに、イベルメクチンという薬を使った駆虫剤（寄生虫を殺したり体外へ排出したりするために用いる薬）を与えられた牛の糞は、糞虫を誘引した上に、幼虫に対して強い殺虫効果を持っていたため、牛糞に頼っていた糞虫たちは絶滅の危機を迎えています。本種も全国的に減少し、野生動物（シカやカモシカ）の糞を食べていた地域や、環境に配慮して放牧されている地域でかろうじて生き残っている状態です。

フン虫たちは、動物（正確には哺乳類）の排泄物を食べることで、糞を分解する上で重要な役割を果たしています。フン虫がいなくなれば、野山は動物の糞で埋まってしまうかもしれません。

【解説：秋山美文（比和自然科学博物館客員研究員）】

